



News Letter ☆ PIANC-Japan

国際航路協会 日本部会ニュース

March 2014 (Vol.14-2) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

執行委員会 (ExCom)、71 回評議会 (Council) 及び事務局長会議 出席報告

事務局長

柳 生 忠 彦

2014年2月6日及び7日に表記会議が PIANC 本部 (ベルギー) で開催されました。ExCom には須野原本部副会長、Council には須野原副会長、池上 (関東地方整備局副局長)、森 (住友ゴム出向) 及び柳生 (事務局長会議出席) が出席しましたので、その概要を報告します。



Council の様子

ExCom においては Council において審議される事項の事前審議他に特別に審議等が無かった。また、事務局長会議においても特別の協議事項が無かったため、Council での審議内容のみを紹介し全般報告に替えます。

1. Action points についての調査結果

Strategic plan (2014-2018) の作成のため、各国から下記のポイントに関するコメントを提出してもらった。その結果に基づき、

下記の様な方針案が審議された。

① Yearbook の簡素化

Yearbook の作成印刷には費用を要している。これを削減するため、年間の活動の概要を掲載 (英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語) し、詳細についてはアクセスのルートを示す。

② “On course” マガジンの扱い

e-news letter に概要を紹介し、e-news letter からマガジンそのものにアクセスできるシステムを取り入れる。

③ WG の TOR 決定

WG の報告書が発刊されているが、報告書によって利用状況が異なっている。需要のある研究テーマを定めることによって、会員の益になる他、非会員への販売益が期待でき、財政的にもプラスとなる。現在、提案された TOR は ExCom で審議されるのみであるが、研究需要があるかどうかの評価が十分には出来ない。そのため、提案された TOR に対して各国からのコメントを求めることとする。また、AGA や Congress の session において今後研究すべき事項の提案をするようにする。

④ WG メンバー表彰

WG のメンバーはボランティアで活動しているが、その活動の労に報いるために “certificate of contribution” を差し上げる。その他、製本版も贈呈する。

⑤ WG 報告

AGA や Congress や COPEDEC 等の機会に報告書の報告(年間 5~8 件)をする場を設ける。また、WG の成果を研修するショートコースを開催する。

⑥ その他

会員、非会員のメリットの差が少ない。入会のインセンティブも与える会員制度を検討する必要がある。

WG 報告書の作成、販売等全般について ExCom メンバーで小検討グループを作る。

2. Strategic Plan 2014~2018 の策定

- ・現況の認識：2011 年以来年間 3.5% の率で会員が減少している。これに伴う収入減。
- ・PIANC の報告書を分野別にし、常に更新するなどの出版方法を見直す。また、需要を的確に把握する。
- ・姉妹協会との連携を進化する(IAPH、IMO、IALA、IAHR、IHMA など)。
- ・古い報告書については非会員にも無料にすることを考える。
- ・PIANC 未加入の国にも PIANC が開催するイベントの招待状を出す。
- ・CoCom を中心として mentor 国が Target Countries に対する入会活動を引き続き行う。
- ・Regional Events の開催を増やす。
- ・ExCom で審議を行ったうえ、次回 AGA で決定する。

3. 財務報告

- ・全体の黒字額は€85,000(予定より€22,000 多い)
- ・会費収入は€322,000 で予定額より大幅に多くなっている。前年の未収分等が入っているのであろうが、詳細を明確にする。(決算の数字が出てきたのが直近であった)
- ・Yearbook の経費が予算額(€25,000)より

増大し€45,000 となっている。

- ・事務局長は PIANC 経費での常勤化はせず、half time の経費を PIANC で負担する。
- ・当面、会費の値上げをする必要な無い。

4. 人事

- ・FinCom の委員長は Jolke Broelsma から Ian White に交代する。
- ・Mr. Lundstad を Vice president として再任する(任期 4 年)

5. DPWA の審査結果

- ・須野原副会長から報告
- ・10 か国から 18 の論文が提出された。
- ・イギリスの Mr. Rustell Michael が受賞することになった。

6. その他

- ・DPWA の授賞を従来の 1 人(€5,000) から 3 人(1 位€4,000、2 位€3,000、3 位€2,000 に改定したい。2 位、3 位については発表旅費の支給はしない。
- ・IHMA (International Harbor Master Association) との姉妹協定の調印式が行われた。

7. 今後の予定

- ・2015/5/18~21、AGA、Med Days、SMARTRIVER、ポルトガル
- ・2016/5、AGA、ベルギー(ブリュージュ)
- ・2016/10、COPEDEC、ブラジル(リオデジャネイロ)
- ・2017/6、AGA、オーストラリア
- ・2017/9、SMARTRIVER、アメリカ
- ・2018、AGA、パナマまたはアルゼンチン

海港委員会 (MarCom) 出席報告

MarCom 委員

樋口 嘉章

(株)オリエンタルコンサルタンツ 執行役員

2014年2月4日(火)および5日(水)に MarCom が PIANC 本部 (ベルギー) で開催されました。その概要を報告します。

1. 出席委員

下記の14名が出席した。

フランシスコ・エステバン 議長
ドミニック・エティエンヌ セクレタリー
仏
ダン・アレン 米
ステファン・ハウザー 独
樋口嘉章 日
トーレ・ルンデシュタット 諾(ノルウェー)
ラファエル・エスクティア 西
アルジャン・ファン・デル・レック 蘭
リュック・ファン・ダーム 白(ベルギー)
マティアス・サンデル 典(スウェーデン)
ヘドウィッチ・フェルハーゲ YP 白
ステファン・コーク 代理メンバー 英
アンドレア・フェランテ 伊
ピーター・ファウンテン 豪

2. 離任、新任のメンバー

・スウェーデンの K. カールソンが引退して、委員を退任する。長年にわたる MarCom への貢献に感謝の意を表す。

・新たな MarCom メンバーは以下の通り
マティアス・サンデルがスウェーデンからの正式代表メンバーとなった。(今回出席)
ピーター・ファウンテンが、オーストラリアから新たな代表メンバーとして参加(今

回出席)するとともに、S. キーンが代理メンバーとなった。

Maciej・グスマ博士(今回欠席)がポーランドからの新たな代表メンバーとなった。

3. 前回会議の議事録とアクション・リスト

・前回議事録が承認された。
・前回会議で決められたアクション・リストの現状に関し、
1~12 と 15 については、対処済み。

13 の Working with nature については、何らかのバックアップ・グループを組織する可能性を探る必要がある。

14 (WG に最初に送るレターに、PIANC の雑誌に経過報告を投稿すること等を依頼する。)については、これから始まる WG (164、171、172) についてセクレタリーが対応していく。

4. ExCom と AGA に関するニュース

PIANC の刊行物に関し、原稿の文面を少し変更して下記の文面で、責任を否認することが提案されている。

「PIANC は内陸水運(InCom)、港湾を含む沿岸および大洋の航路(MarCom)、環境(EnviCom)、スポーツ・レクリエーション航路(RecCom)、に関する技術委員会を有している。この報告書は海港委員(MarCom)が監修したものである。WG のメンバーは各国の代表であって、その職における専門家と見なされている。

本レポートの目的は、よい実践についての情報・勧告を提供することにある。適合・一致は必須とはされておらず、その適用に当たっては工学的判断が、とりわけ特殊な状況においては、求められる。本レポートは専門家向けのガイダンス、ある特定の課題についての専門家向けガイダンス、最新の知見と見なされるべきである。PIANCは認証機関ではなく、このレポートが正式な基準であるとか、検定・保障に使われても、その責任を負うことはできない。」

WG145（接岸速度と防舷材の設計）の報告書出版に関しての ExCom の決定は以下のとおりとなった。

—WG レポートには広告は載せない。（一般的に PIANC レポートは広告を載せることになじまない。とりわけ、防舷材についてのレポートに防舷材メーカーの広告が載ることは好ましくない。）

—印刷に対するスポンサーは受けないこととなった結果、本レポートは印刷したバージョンは作られないこととなった。（上記と同様の理由）

—HQ は、いわゆる「PIANC のフェンダーに関する基準」についてのすべての問い合わせに対して、PIANC はガイドラインを提供しているだけであって、PIANC の基準というものは存在しないと説明していく。

ストラテジック・プランについては第 2 版が MarCom メンバー間で回覧された。そしてストラテジック・プランのドラフトが仙台での会議での議論を踏まえて、アップデートされた。PIANC ストラテジック・プランについては、サン・フランシスコの kongress で承認される見込み。

ExCom は、WG の成果を様々な手段(例えば、レポートで明らかになったことについての発表やケース・スタディなどによる二日間のショート・コースを開催するなど)で広めることを勧めている。

ExCom は、姉妹組織との連携を強化しようとしている。カウンシルの期間中、2 月 7 日には国際港長協会(International Harbour Masters Association)との間で、MoU が調印されることとなっており、その際には、シミュレーターに関する WG171 について、言及されることとなっている。

Working with Nature(WwN)賞に関しては、審査委員会の委員長を副会長 J. ヘッドランドが務めている。この賞はサン・フランシスコで授与されることになっている。

DPWA 賞については、審査委員会委員長を須野原豊副会長が務めている。MarCom メンバーとして、アンドレアが参画している。

PIANC の財政と計画に関しては、財政タスク・フォースが組織された。これにはトーレとフランシスコが参画している。PIANC の会員数が減少しており、また（参加および財政的支援の面で）政府会員の関与が縮小されている。このため、産業界からもっと関与してもらうことが必要であり、財政を改善するような新たな取り組みが必要となっている。事務局長については 2014 年末まで、委任の延長がなされる見込みだが、それ以降は（おそらく常勤ではなく）新しい事務局長が任命される見込みとなっている。

サン・フランシスコでのコンGRESに關しては、論文の選抜は終了している。何篇かは MarCom の WG に關連した論文が発表されるほか、ショート・コースの中にも MarCom に關連した話題（マリーナ、沿岸災害からの教訓、防舷材と接岸速度 (WG145)）がある。

コンGRES 期間中の合間を縫って、MarCom の会合を開催する。

5. PIANC MarCom の戦略的アクションプラン、PIANC の財政的状況と将来の選択肢

2013年12月16日に PIANC のタスク・フォース会議が開催された。近い将来、タスク・フォースは ExCom と各国セクションの評議会とともに、彼らの提案を共有して、レビューして、スムーズだが効果的に、そして、もっと専門家本位の協会となることを目指して、どのように進むべきかを決めることになる。将来の選択肢としては、公と私の また 研究、学会、工学のメンバー間の平衡を保つものから、もっと市場志向型のもので、ありうる。

考えられているアイデアとしては以下のようなものがある。

○レポートの作成のサイクルを4年以下で行うようにして、HQ によって管理されるコンGRESの場で、発表していくようにする。これによって2018年以降出版の遅れを短くすることができる。

○少数しかダウンロードされない報告書が多い状況を避けるため、ToR について、単に委員会と ExCom だけでなく、より広いメンバーで承認する。

○友好団体とのより深い関係

○ショート・コース、YouTube ヴィデオ、

ウェビナー（ウェブとセミナー、インターネット上で行われるウェブ・カンファレンス）、研究プロジェクトなど、成果物の意味を明らかにして、選択する。

○料金徴収についての新しいルールを作る（会員への報告書無料ダウンロードを2回目以降有料にするなど）

○CoCom を見直し、HQ に新たな仕事を課し、より地域イベントを増やし、より continental shaped な組織を目指す。

○PIANC のより野心的かつ経済的・財政的に持続可能かつ成り立ちうるモデルを作り、新たな戦略プランを立てる。

したがって、

○「危機回避」短期アクションプランを立てる

○より長い期間の新しい戦略的計画を引き出す。

これらは、議論のためのたたき台であって、現時点でななら決定されたものではない。

この話題の展開については、トーレとフランシスコが MarCom に情報を伝える。

6. WG の状況

6.1 出版の予定

WG49（港湾の航路設計法ガイドライン2014）は PIANC WG121 レポートとして、公開された。短期間のうちに、多くのダウンロードがなされた他、非会員にも販売された。

WG53A（特別出版の「東日本大震災による港湾の津波災害」）は近日中に公開される見込み。（その後、2013年2月21日に HP にアップされた。）

今後、出版が予定されているのは、

—WG135（コンテナ・ターミナル）

—WG158 のドラフト・ファイナル・レポ

ートはすでに出来ており、2月21日までに MarCom メンバーのレビューを受けて、出版へ向け HQ に送られることとなっている。

6.2 WG の進行状況

WG47 (防波堤タイプの選定)

WG の議長は 2013 年 12 月に WG メンバーの間で、ドラフト・ファイナル・レポートを配るとともに、MarCom にも情報として送ってきた。MarCom としては、WG メンバーが承認するのを待っている。また、MarCom としてはレポートの前半部分 (1~7 章) はガイドラインだが、後半部分については、多くの有用な調査結果を含んでおり、本文よりむしろ補遺で取り扱うべきと考えている。後半部分の各章については、削除するか、簡潔にして、補遺に回すことを勧告する。さらに、ToR を満足している度合いを確認すべきである。

MarCom の議長がステファン・コークに e メールを送って、WG にこれらの勧告を伝えてもらう。

WG48 (バウ・スラスターに関する港湾建設のガイドライン)

ドラフト・ファイナル・レポートがリュックに送られた。2 月末締め切りで、MarCom メンバーに意見を求めることとしている。

WG144 (港湾浚渫のための岩の分類)

2013 年 1 月に MarCom への発表がなされた。その後、WG は 2013 年 2 月 28 日~3 月 1 日にロッテルダムで、また 2013 年 12 月 5 日~6 日にオタワでの 2 回、WG メンバーからの意見について議論するために、会合を持っている。これらを反映したドラフト・レポートが MarCom メンバーにレビ

ューのため、配布されており、2 月末までに意見が求められている。WG のメンターは、特に、WG 内で意見の一致をみなかった、6 章について、このまま残すか、もっと短くするかについて、意見を求めている。最終報告書の第一稿 (7 章、92 頁) は 2014 年 4 月 1 日までに、準備される。既に、前回の MarCom で議論されており、ExCom にも承認されていることから、その後、電子版として公開されるとともに、スポンサーがついて印刷バージョンも発行される見込みである。

WG145 (接岸速度と防舷材の設計)

報告書は、接岸速度の計測を含む多くの情報を文献を統合整理している。14 年 3 月に、最終の WG が予定されているとともに、WG の成果については、サン・フランシスコのコンGRESで、論文発表とショート・コースが計画されている。(ただし、この時点では、WG の中間報告という位置づけになる。) MarCom へのドラフト・レポートの発表は、6 月のサン・フランシスコか、遅くとも 9 月のベニスで行われる見込み。

WG152 (クルーズ・ターミナルのガイドライン)

2013 年 6 月と 10 月に 2 回 WG が開催された。次回は 2014 年 3 月 10 日に、それぞれの章の第一稿をレビューするため、マイアミで開催される予定。WG メンバーとしては、2014 年 7 月にはレポートを概成させて、2014 年 9 月か 2015 年 2 月の MarCom でドラフト・ファイナル・レポートの発表を行いたい意向である。

WG153 (海洋石油ターミナル設計の勧告)

前回会合は 2013 年 9 月に開催された。今後、2014 年 3 月と 9 月に予定されている。WG としては、ドラフト・レポートを 2015 年に出すべく、2014 年 9 月か 2015 年 2 月に MarCom への発表を考えている。

WG159 (海港のための再生可能エネルギー)

前回会議は、2013 年 10 月 25 日にロッテルダムで開催された。次回会合は 2014 年 3 月 21 日にハンブルグで予定されている。WG の名前は、もう少し広く「海港における再生資源とエネルギー効率」とでもする方がよい。

質問票が、国際的に配布された。フェール・ファン・デル・ラールが IAPH と連絡をとるのを手伝えるだろう。イランの代表と連絡が取れない。MarCom 議長から HQ にイランからの新しいメンバーがいるか問い合わせることにする。英国メンバーが離れることとなり、新しい技術力のあるメンバーが求められている。さらに電機部門のエンジニアが求められている。エグベルト・ファン・デン・ベルグはロイヤル・ハスコニーのルイジス提案している。彼はチームに参加する意思がある。彼はオランダからの代理メンバーとして承認することができる。

目次は、ほとんど最終版となっており、現在 MarCom メンバーがレビューしている。ドラフト・ファイナル・レポートについては、2015 年 9 月の MarCom ミーティングまでに、準備されると思われる。

EG160 (設計基準と港湾構造物ガイドラインの概観、元 WG50)

2013 年 4 月に最終会合をウェブ上で予定されていたが、メンバーの都合がつか

なくて、キャンセルされた。すべてのナショナル・セクションに設計基準とガイドラインに関するデータシートが送付されたが、2013 年 11 月の締め切りを過ぎた現時点ではまだ回答を受け取っていない。MarCom としては、この EG をさらに進めるか、ExCom に対してこの EG を解散することを ExCom に提案しなければならない。

WG161 (沖合風力発電施設と船舶航行の関係)

2013 年 3 月と 10 月に 2 回会合が開催された。次回会合は 2014 年 4 月にロッテルダムで予定されている。WG は間もなく(サン・フランシスコかベニスで)、MarCom に目次(案)を示す予定である。

WG162 (海洋コンクリート構造物の耐久性向上と供用期間に関する勧告)

次回第 3 回会合が、2014 年 4 月終わりにモナコで予定されている。今年中にはテキストはできる予定であり、2015 年 2 月に MarCom で報告できる見込み。

WG165 (コンテナ・ターミナル舗装の設計と維持管理)

WG は順調に進んでいる。2015 年 1 月に報告書の全文が用意される予定であり、2015 年 2 月の MarCom で発表できる見込みである。

WG167 (RoRo および RoPax ターミナル)

WG は 3 月上旬にもキック・オフ・ミーティングができる見込み。セクレタリーからスタート・レターを発出する。WG 議長とメンターは、WG の参加メンバーを増やすことができないか考えている。オランダはすでに参加表明、話題から考えてスウェ

ーデン、さらには東南アジア(フィリピン、インドネシア)からの参加が可能であればよいのだが。

6.3 新たな WG の立ち上げ

WG164 (浚渫増進によるターミナルの機能向上)

この WG は 11 か国 (アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、デンマーク、フランス、ドイツ、オランダ、RSA、スペイン、英国、米国)からの 16 名のメンバーが参加している。議長には英国のクリス・ボイソンスが指名された。セクレタリーは速やかにスタート・レターを発出する。

WG171 (操船シミュレーション)

この WG は 7 か国 (米国、ポルトガル、スペイン、ドイツ、ベルギー、オランダ、英国)からの 11 名のメンバーが参加している他、パナマ運河水先人協会が参加している。ドイツのメンバーが議長に指名された。これ以外の国 (例えば Force Technology のあるデンマーク、Cerema のあるフランス、日本)の参加も歓迎する。正式なレターが MarCom のセクレタリーから発出される。メンターはステファンが務める。

WG172 (LNG ターミナル)

この WG は 8 か国 (ベルギー、ポルトガル、スペイン、米国、オランダ、スウェーデン、英国、フランス)からの 13 名のメンバーが参加している。ステファンは英国のメンバーが議長をしないか確認する。もし断られた場合には、セクレタリーから各メンバーに議長を募るメールを出す。

6.4 他の委員会との共同作業

EnviCom

Working with Nature

アルジャンが当該 WG の MarCom 代表となっている。

リュックが WwN 賞の審査委員会に参画した。

PTG 気候変動

ピーター・ハンターが MarCom の通信メンバーとなっている。特段の動きなし。

WG136 持続可能な海洋航行
報告書が発行された。

EG150 グリーン・ポート

WG の状況をチェックする必要がある。

InCom

WG140 内陸水理構造物に関する半確率論的設計コンセプト

特段のニュースなし。

WG155 閘門内と閘門へのアプローチでの船舶の挙動

MarCom はピーター・ハンターが代表している。WG は活発に活動している。

WG156 Eナビゲーション

欠席している Veikko が MarCom を代表している、WG からのニュースはない。

RecCom

RecCom147 レクレーション航行活動のよりよい統合のためのガイドライン

WG147 の代表はアンドレアが務めている。

WG は活動しておらず、RecCom としては、今後も進めるか検討中。

6.5 WG に関する概括的議論

MarCom メンバーとしては、WG の最終

レポートで、コメントがどのように反映されたかについてのフィードバックが得られれば、幸いである。

WG をどのように運営するかについての共通のガイドラインを共有できるとよい。ステファンとピーター・ハンターでスタート・レターに添付できるようなガイドラインとアドバイスのドラフトを提案する。これはワークフローに沿ったものであるべきである。

WG の表については、アップデートして議事録に添付する。そして、会合の前にはウェブサイトにもアップする。(セクレタリー)

7. 今後準備すべき ToR

ステファンが下記 ToR を準備することとなった。

- まだ WG レポートで扱われていないドライ・バルク・ターミナル
- 海洋施設の設計と建設における健康・安全配慮

8. WG の報告

WG158 既存の港の開発のマスタープラン

WG 報告書は WG に関与していなかった二人の専門家によってレビューされる。報告書は短期の戦略的計画(5~10 年)とマスタープラン(25~30 年)の異なる期間の計画について言及している。ガイドラインを示すとともに、柔軟である程度あいまいであるべきことを思い出させている。本レポートは既存の港湾について記述しているが、新規港湾についても適用可能である。(ただし、新規の港湾立地の場合は、適地選定とインフラの建設についての記述がさ

らに必要と言える。)

9. MarCom の特別な活動

○ニュースレター

○PIANC マガジンへの短いレポート

PIANC の出版物や雑誌は、技術的な記事が不足している。MarCom の議長は WG のメンターに対して、技術的なイベントや結果について発信していくよう要請する。MarCom としては年に 4~5 編は技術的な記事を出していきたい。記事は最終報告書の紹介でもよい。MarCom セクレタリーが原稿の締め切りの情報を受けた際には、それをメンバーに周知することとする。

○PIANC 年報への MarCom の貢献については、フランシスコが調整を図る。

○ウェブサイト 作業中だが、さらなるアップデートが必要(セクレタリー)

10. 会議開催の予定

さまざまな会議の予定

○2014 年 2 月 10~11 日 ヨーロッパ港湾海運会議 ベルギー アントワープ

○次世代コンテナ船のための港湾国際会議 2014 年 2 月 17~18 日 独 ハンブルグ

○IAPH 中間年会議 2014 年 4 月 6~10 日 豪 シドニー

○DEVPort 港湾・海運・地域発展のための国際会議 2014 年 6 月 12~13 日

○交通研究アリーナ(TRA) 2014 年 4 月 14~17 日 仏 パリ 経済のための背骨としての社会資本の重要性に関する特別セッションがあり、フランシスコ議長は参加予定)

○ICPMS 2014 港湾及び海運のセキュリティに関する国際会議 2014 年 8 月 14~15 日 伊 ベニス

○将来の港湾 2014 年 9 月 仏 パリ

○LOGMS 2014 ロジスティクスと海運システムに関する国際会議「将来のスマート・ロジスティクス」 2014年10月27~29日 蘭 ロッテルダム

○MTEC 2014 国際海事と港湾技術と発展会議 2014年10月27~29日 ノルウェー トロントハイム

PIANC の行事は下記の通り予定されている。

○2015年 AGA および地中海デー ポルトガル ポルト

○2015年 スマート・リヴァー アルゼンチン

○2016年春 AGA 白 ブルージュ

○2016年 COPEDECIX 2016年10月
ブラジル リオ・デ・ジャネイロ

○2017年 AGA 豪 ケアンズ

○2018年 コングレス パナマとアルゼ

ンチンの二国が立候補

11. 次回以降の MarCom 会合予定

2014年6月 サン・フランシスコでの
コングレス開催期間中に行う。

2014年9月15日(月)および16日(火)に、イタリアのホストで、ベニスで開催する。15日に終日会議(於 アルセナーレ)、16日にモーゼ・プロジェクトの視察を予定している。

2015年2月はブリュッセル、2015年9月ノルウェー(おそらくオスロ)で開催する。

今回のブリュッセルは同じ時期の東京より気候が穏やかで、過ごしやすかった。

国際協力委員会 (CoCom) 出席報告

CoCom 委員

大内 久夫

日建工学株式会社専務取締役

1. 日時 2014年2月5日(水) 14:30
~17:00

2. 場所 PIANC 本部ビル会議室

3. 出席者 Edward Schmelts (米) 共同
議長

Akua Rao (インド) 共同議長

Hartmut Bruhl (独)

Ron Cox (オーストラリア)

Jean-Marc Deplaix (仏)

Peter De Wolf (ベルギー)

CoCom 事務局

Vaido Kraav (エストニア)

Jose-Luis Monso de Prat (ス

ペイン)

Ronald Stive (オランダ)

Freddy Wens (ベルギー)

PIANC-COPEDEC 担当

大内久夫 (日本)

Louis Van Schel PIANC 事務

局長 (特別参加)

4. 議事

共同議長の一人である Schmelts の司会で
会議が進められた。

(もう一人の共同議長である Rao は、1時
間程度遅れて参加)

1) 欠席者名と欠席理由について事務局
De Wolf が紹介

2) 前回議事録の承認 (Stive 発言部分に

ついて訂正後、承認された)

3) 新規勧誘国についての報告と討議

メンバーからの報告に先立ち、事務局
長 Schel から、2月4日に PPA より
年会費の振込があり新規会員となるこ
と、この加盟に際しては日本の尽力に
よるものであることが紹介され、各メ
ンバーから賛辞の表明があった。

今後、事務局と日本が協力してマニラ
においてセミナーあるいはワークショ
ップの開催準備の検討を行うことにな
り、これにオランダ、オーストラリア
も協力することとなった。窓口は、大
内が勤めることとなった。

その後、配布された表 (参考資料-2)
に従って担当より報告があった。

ラテンアメリカ

- ・ Schmelts がコロンビアで3日
間のワークショップを開催し
たいと表明。Schel がフィリピン
でもワークショップ等の開
催予定があり、費用効果の検討
が必要な旨、発言。(昨年に関
続きであること、3日間の開
催の必要性に疑念か?)

アフリカ

- ・ 特に進展はなし

アジア

- ・ 大内より、インドネシアで
PIANC 加盟に理解のあったケ
マル局長が1月に急遽異動と

なってしまったこと、今年は大統領選、総選挙でしばらく新規取り組みが難しいことを説明。引き続き、事態の推移を見ながら努力を継続することとなった。

- ・ 大内より、ベトナム代表が昨年 PIANC 本部を訪問し、2014 年より再加盟したい旨の表明があったこと、再加盟に向けた準備中であるとの情報を披露。ベルギーの Wens は、新年度の開始が 4 月であり、加盟時期はまだ先ではないかと発言。

欧州

- ・ 特に進展はなし

オセアニア

- ・ 太平洋の島嶼国を一体として加盟させる案もあることが紹介された。

4) 小委員会報告

a 訓練・教育のホームページの活用

Stive より、依然として活用度が低いとの話があり、各国の国内委員会に活用を求める文書を発出したいとして、その原案が事務局に提出された。活用策の一つとして、このホームページに記載された研修に PIANC が認定書的なものを発出する案が出されたが、肯定的な意見はなかった。

b 地域グループ

- ・ インドネシアでのセミナー開催についてはしばらく様子を見ることとなった。
- ・ Schel より、日本、韓国、中国の 3 カ国で港湾関係の会議が開催されているが、PIANC の活性化により活用できないか

と持っているとの発言があった。

- ・ 日本を含め 3 カ国から fellowship の申し出があったがまだまだ不足しており、更なる支援要請が必要である。

c COPEDEC

- ・ 担当の Wens より、この Council でブラジルが次回の COPEDEC 開催を正式に表明するとの紹介があった。

5) 前回会合以降の活動のフォローアップ

6) 2014 アクションプラン

項目ごとに内容、進捗の確認を行った。

7) Working with nature Jury

担当の Bruehl より、16 件の応募があり、うち 7 件が選定された旨の報告があった。

8) その他 特になし

9) 次回会合の時期と場所

サンフランシスコの Congress の期間中に開催

以上